

研究の紹介



肉質が優れ、大粒で食味良好なブドウの新品種 ‘シャインマスカット’

ブドウ・カキ研究部 育種研究室 山田 昌彦

過去20年間のブドウ生産は大粒品種の‘巨峰’が大きく伸びたが、近年、漸減している。ブドウ生産を維持・発展させるためには、より食味が優れる大粒ブドウの育成が必要である。ブドウの味については、一般に、アメリカブドウに由来する塊状の肉質よりヨーロッパブドウに由来する崩壊性で硬い肉質に対する評価が高く、‘巨峰’、‘ピオーネ’はその中間の肉質である。

‘巨峰’、‘ピオーネ’等がアメリカブドウの香りであるフオクシー香であることから、ヨーロッパブドウの香りであるマスカット香を持つ品種の需要も大きいと考えられる。また、種なしブドウに対する要求も強い。そこで、肉質が崩壊性で硬く、マスカット香を持ち、大粒で種なし栽培も可能な新品種‘シャインマスカット’を育成した。

育成経過

1988年に‘安芸津21号(‘スチューベン’×‘マスカットオブレキサンドリア’)に‘白南’を交雑して育成した品種である。1999年に開始されたブドウ第9回系統適応性検定試験(系適)に‘ブドウ安芸津23号’として供試した。28都道府県31カ所の国公立果樹関係試験研究機関において特性が検討され、新品種候補として選抜された。2003年に‘シャインマスカット’と命名、農水省育成農作物新品種‘ブドウ農林21号’として登録された。現在、種苗法による品種登録を出願中である。

特性の概要

果実成熟期は‘巨峰’とほぼ同時期であり、育成地では8月中下旬である。果皮色は黄緑色である。育成地における果粒重は有核栽培で10g程度で‘巨峰’より3g程度小さい。肉質は崩壊性で硬く、マスカット香がある。糖度は‘巨峰’と同程度で、育成地で19° Brix程度である。収穫期の酸含量は‘巨峰’より低く、育成地では0.4g/100ml程度である。裂果性は非常に小さく‘巨峰’と同程度である。‘巨峰’と同様、渋みはほとんど発生しない。‘巨峰’よりやや皮しにくい。また、‘巨峰’より脱粒しにくい。日持ち性は‘巨峰’より長く、‘ネオマスカット’程度である。

有核栽培では、花穂の下部4cmを切り落としその上部7cmを残す整房(花穂整形)を行い、摘粒を9cmの穂軸に40粒程度にするとよい。花穂の中で残す部分の満開期に整房を行うと花振るいが少なく、適度に結実する。樹勢が強くても、また、開花時の新梢長にかかわらず(30~100cm)花

振るいは少ない。この場合の整房・摘粒労力はいずれも‘巨峰’程度である。系適では一般に長梢剪定栽培が行われ、短梢剪定栽培は試験例が少ないが栽培可能と見込まれる。黒とう病抵抗性は弱い。べと病抵抗性は‘巨峰’なみと見込まれるが、正確な評価にはなお試験が必要である。

ストレプトマイシン200ppmを開花前に散布し、満開期と満開10~15日後にジベレリン25ppm花(果)房浸漬処理を行うことにより無核化栽培できる。有核栽培より果粒重が1g程度増大する。

適地

一般に‘巨峰’栽培地域で栽培できる。系適では耐寒性は‘巨峰’と同程度であると評価された。

育成者

山田昌彦、山根弘康、佐藤明彦、平川信之、岩波宏、吉永勝一、小澤俊治、三谷宣仁、白石美樹夫、吉岡美加乃、中島育子、中野正明、中畝良二



シャインマスカットの果実